

## 子どもは地域の宝、地域全体で子どもを守り育てる 交流・協働・共育による学校・人・里づくり

みなさん こんにちは。石榑小学校を拠点に、子どもを守り育てる活動をするボランティア団体「石榑の里コミュニティ」の代表 森清光です。



### <豊かな学び、豊かな育ちのために>

石榑小学校には、地域住民に開放されたフロア「地域ゾーン」があります。石榑の里コミュニティは、この地域ゾーンを活用して子どもたちが、より豊かに学び、より健やかに育つよう、学校や育友会(PTA)、地域の各種団体などと力を合わせ様々な取組を行っています。そして、これらの取組を通じて、子どもも大人も石榑が好きになり、皆が誇れる地域になることを目指しています。

### <居場所づくり、安全確保、交流イベント>

放課後や休日の子どもの居場所づくりとして、地域の方が生け花や音楽、工作などの先生となった体験教室「わくわくスクール」。茶摘み、酪農、米作りなど地域をフィールドにした小学校の総合学習の支援。保護者や児童と一緒に学校の清掃・花壇の手入れ。通学時の見守りや地域での安全確保などに取り組んでいます。校歌にも歌われる「竜ヶ岳」登山や、小学校を会場に学校と地域が交流するお祭「石榑の里まつり」など、イベントの企画・運営も活動の特徴です。



### <地域の人材活用>

地域には様々な特技を持った方が見えます。皆さんはあえて特技とは言われませんが、米作り、お茶づくり、竹細工、絵、料理など…挙げれば切りがありません。また、子どものため、学校のためなら尽力することをいとわない方ばかりです。このような地域の方々や団体をネットワークでつなぎ、学校づくり、人づくり、里づくりの輪を広げているのも特徴です。



### <活動理念>

こうした活動のベースには「子どもは地域の宝 地域全体で守り育てる」、「交流・協働・共育による、学校・人(子どもも大人も含む)・里(地域)づくり」という共通認識があります。この活動理念に基づき、“教育(共育)とは次世代へつなげる営み”であるとして、地域全体で“共育活動”(共に育てる・共に育つ)に取り組んでいるのです。

### <活動のきっかけ>

活動のきっかけは、2001年から始まった新校舎建設委員会にあります。丁度そのころは、教育内容の多様化、子どもが対象となった犯罪被害の増加、人間関係や地域のつながりの希薄化など、全国的に子どもや学校、地域をとりまく環境が大きな課題に直面している時期でもありました。5年53回に及ぶ校舎建設を話し合うワークショップでは、校舎の建設にとどまらず、直面する課題を解決するため「子どもは地域の宝として地域全体で守り育てよう。そのための環境と体制づくりが必要だ」という共通認識が紡ぎだされました。そして、この思いが結

実し 2005 年「石樽の里コミュニティ」が発足し現在に至っています。

### <活動資金の確保>

活動を続けていくには資金の確保も欠かせません。このため地域を走る国道の草刈りを県から受託したり、イオン(株)のイエローシートなどにも取り組んでいます。



### <企業や大学との連携>

企業や大学との連携は子どもたちにより豊かな学びを提供してくれます。

(株)デンソーが実施する海外支援衣料回収活動では、衣料の回収だけに止まらず、海外支援の意義について同社社員から受けるレクチャーが、子どもの目を世界に広げてくれます。名古屋大学大学院小松研究室によるワークショップは、大学生のお兄さんやお姉さんとの交流を通じて創造力を育む貴重な機会となっています。

### <各主表彰>

このような取組が評価され、2011年にはパナソニック教育財団の「子どもたちの“ころを育む活動”」全国大賞、2012年には、文部科学省の「地域による学校支援活動推進にかかる文部科学大臣表彰」、住友生命の「未来を強くする子育てプロジェクト」未来大賞及び文部科学大臣賞を受賞しました。

### <今後の目標>

東日本大震災では、多くの学校が避難所としての役割を担いました。その光景を目の当たりし、地域における学校の役割の重要性を痛感しました。平素からの地域と学校の連携が、子どもを守り、地域を守ることにつながるのだと強く認識しました。この惨禍が私たちの心に活動の意義を強く刻み込んだのです。

今後、重点的に取り組みたい事が二つあります。一つ目は放課後や休日に子どもたちの学習支援です。様々な理由で学習支援を必要とする子どもたちに良好な学習環境を提供するためです。二つ目は地域住民に開放された学校のフロア「地域ゾーン」を、地域皆さんの日常的な交流の場とすることです。常に大人の目が子どもや学校へ注がれることで、安全・安心が確保されるからです。さらには、地域のおじさん・おばあさん、おじさん・おばさんたちと子どもたちとの交流が、子どもたちの豊かな育ちに必要だと考えているからです。



### <“ほちほち”と>

建設委員会発足から10年の節目となる2012年11月、元文部科学大臣でパナソニック教育財団理事長 遠山敦子様や、宗教学者の山折哲雄様をお迎えし、「ころを育む総合フォーラム」を開催することができました。「地域が一体となって取り組めばこんな素晴らしいことが出来るんだ。日本一の地域と小学校だ」と、遠山様・山折様からいただいた言葉を励みに、次の10年に向け、あせらず、おごらず、“ほちほち”活動していきたいと思ひます。

